

東日本大震災被災県中学校の取組

宮城県仙台市立七郷中学校

1 概況

- (1) 東日本大震災により、地域のほぼ半分(荒浜地区)が津波で壊滅的な被害を受け、仙台市内で唯一在校生徒が犠牲になった中学校である。
- (2) H27.4.1 現在、保護者や家族を亡くした生徒が6名、仮設住宅(みなし仮設住宅を含む)で生活している生徒が9名在籍している。
- (3) 周辺の広大な土地を利用した防災集団移転用地の造成や災害復興公営住宅の建築、地下鉄東西線の開通など、地域の急速な変化が見られる。

【地震直後の様子】



<理科室>



<職員室>



<荒浜地区>

【再生に向けて】



<避難所での生徒の活躍(新聞記事)>



<体育館を9つに区切った段ボール教室>

【現在の学校西側の風景】



<新築・入居が進む防災集団移転用地>

2 取組の概要

- (1) 全体計画，年間指導計画，地震対応マニュアルの見直し・作成
- (2) 全校一体になる活動，縦割り活動の設定（「考動議会」，巨大壁画作りなど）
- (3) 訓練の実施（引き渡し訓練，学校地域合同防災訓練など）
- (4) 年間5回の「学校防災の日」を実施（訓練や考動議会，学習・体験活動，セレモニーなど）
- (5) 総合的な学習の充実と地域に根ざした体験的活動の重視
（防災マップ作り，フォトブック作り，地域クリーン作戦，挨拶運動など）
- (6) 「心のケア」に関わる学習
- (7) 防災教育副読本の活用
- (8) 風化を防ぐ取組・外部への発信
（「震災を語り継ぐセレモニー」，「復興展」の開催，「国連防災世界会議」参加等）
- (9) これに加えて今年度は，以下の点について重点的に取り組んでいる。
 - ① 教科・領域における防災教育の位置付けの確認・整理。
 - ② 小学校での学びを受け，3年間を見通した指導の系統性や発展性の整理。
 - ③ 直接体験や記憶に頼らない，具体的かつ継続的な防災教育の確立。

【考動議会（縦割りで話し合う活動を通して，発災時に役立つ実践力を身に付ける活動）】



【学校地域合同防災訓練（地域・小学校・中学校合同の訓練・防災の学びの発表等）】



【防災マップ】

【巨大壁画作り】



【国連防災世界会議での発表】

